

行動科学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
行動科学概論	ミクロ-マクロ問題入門	2	金澤 悠介	前期集中 その他 連講	
行動科学概論	社会調査の基礎	2	木村 邦博	前期 火曜日 5 講時	
行動科学概論	社会調査の実際	2	木村 邦博	後期 火曜日 5 講時	
行動科学概論	ゲーム理論入門	2	毛塚 和宏	後期 木曜日 5 講時	
行動科学基礎演習	行動科学のための数理モデル入門	2	浜田 宏	前期 金曜日 4 講時	
行動科学基礎演習	行動科学のための因果推論入門	2	浜田 宏	後期 金曜日 4 講時	
行動科学基礎実習	多変量解析	2	小川 和孝	後期 水曜日 4 講時 後期 水曜日 5 講時	
行動科学基礎実習	社会調査演習	2	小川 和孝	前期 水曜日 4 講時 前期 水曜日 5 講時	
行動科学各論	政治心理学	2	濱田 国佑	後期集中 その他 連講	
行動科学各論	多文化共生論	2	永吉 希久子	前期集中 その他 連講	
計算人文社会学各論	人文学・社会科学の計算的アプローチ 入門	2	瀧川裕貴	前期 金曜日 3 講時	
行動科学演習	偏見の社会学	2	小川 和孝	前期 金曜日 2 講時	
行動科学演習	移動と階層	2	小川 和孝	後期 金曜日 2 講時	
行動科学演習	質問の科学	2	木村 邦博	前期 月曜日 4 講時	
行動科学演習	「質問の科学」実験実習	2	木村 邦博	後期 月曜日 4 講時	
行動科学演習	社会秩序形成とエージェント・ベース ト・モデル	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	前期 月曜日 5 講時	
行動科学演習	エージェント・ベースト・モデルによ る社会現象の分析	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	後期 月曜日 5 講時	
行動科学演習	ベイズアプローチによる社会学の理論 と実証	2	浜田 宏	前期 水曜日 2 講時	
行動科学演習	社会科学のためのエコノメトリクス	2	浜田 宏	後期 水曜日 2 講時	

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：金澤 悠介

コード：LB98801 科目ナンバリング：LHM-OS0201J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：マイクロ-マクロ問題入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Micro-macro Problems

3. 授業の目的と概要：この授業は (1) 社会学的な観点からマイクロ-マクロ問題を解説するとともに、(2) マイクロ-マクロ問題を分析するための具体的な手法を紹介します。具体的には、(1) マイクロ-マクロ問題という観点から社会学の伝統的な理論を解説するとともに、(2) ゲーム理論、ネットワーク分析、エージェント・ベースト・モデルなどのマイクロ-マクロ問題にかかわる分析手法を紹介します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：未

5. 学習の到達目標：

この授業の到達目標は以下の3つです。

- (1) マイクロ-マクロ問題にかかわる社会学的な考えかたを理解する
- (2) マイクロ-マクロ問題を分析するための手法について理解する
- (3) (1)、(2)をつうじて、マイクロ-マクロ問題という観点から社会現象を自分なりに分析・解明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：未

7. 授業の内容・方法と進度予定：

我々の価値観や行動は社会のありかたに大きな影響を受けることがあります。逆に、我々の価値観や行動が社会のありかたを大きく変えることもあります。人々の価値観・行動と社会のありかたの関係を考えるのがマイクロ-マクロ問題ですが、このマイクロ-マクロ問題は経済現象、地球環境問題、ジェンダーと働きかたの問題など多くの社会現象と深い関わりがあります。この授業では、マイクロ-マクロ問題を考えるのに必要となる社会学的な考えかたと分析手法について概説的に解説していきます。

授業は講義形式で行う予定です。また、授業内に何回か課題を行ってまいります。各回の内容は以下のものを予定しています。

【授業計画】

第1回 マイクロ-マクロ問題って何？

第2回 社会の法則を解明する？：マルクスの経済学

第3回 社会を解明する方法？：デュルケムの社会学

第4回 それは社会の役に立つの？：構造機能主義の社会学

第5回 個人を理解するための社会学？：ウェーバーの理解社会学

第6回 それは何を意味するの？：相互作用の社会学

第7回 社会の変化と個人の変化：モダニティの社会学

第8回 エゴイストはお互いに仲良くできるの？：秩序問題の合理的選択理論 (1)

第9回 集団のまとまりを保つコツは？：秩序問題の合理的選択理論 (2)

第10回 格差はなぜ生まれるの？：社会的不平等についての合理的選択理論

第11回 個人と社会をつなぐネットワーク：ネットワークの社会学

第12回 友だちは何の役に立つの？：ソーシャル・キャピタルの社会学

第13回 とりあえずコンピュータに聞いてみよう！：分析社会学とエージェント・ベースト・モデル (1)

第14回 とりあえずコンピュータに聞いてみよう！：分析社会学とエージェント・ベースト・モデル (2)

第15回 複雑な社会を分析するためには？：授業のまとめ

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [50%]

授業内で提示する課題 (50%) と最終レポート (50%) で成績評価を行います。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しません。参考文献については授業内で適宜提示します。

10. 授業時間外学習：授業内の課題や最終レポートを行うために、授業内容を復習するとともに関連する文献を読むことを期待します。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：木村 邦博

コード：LB32502 科目ナンバリング：LHM-OS0201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査の基礎

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Social Surveys

3. 授業の目的と概要：現代社会を特徴づける人間活動の 1 つである社会調査について、その目的と進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りから様々な情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course serves as an introductory course on social surveys. It helps students understand the basics of questionnaire design, sampling, interviewing, data analysis, and research ethics.

5. 学習の到達目標：

社会調査に関する基本的な知識を修得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course helps students acquire basic knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 現代社会と社会調査：社会調査の目的と意義
2. 社会調査の用途と歴史：社会調査の歴史
3. 調査内容の決定(1)
4. 調査内容の決定(2)
5. 調査対象の決定(1)
6. 調査対象の決定(2)
7. 調査の実施と処理(1)
8. 調査の実施と処理(2)
9. 結果の集計と分析(1)
10. 結果の集計と分析(2)
11. 聴取調査の方法：質的調査、社会調査の実例(1)
12. 調査報告をまとめる
13. さまざまな社会調査(1)：社会調査の実例(2)
14. さまざまな社会調査(2)：社会調査の実例(3)
15. 調査者と被調査者：社会調査の倫理

8. 成績評価方法：

レポート (Google Classroom で提出) による。

9. 教科書および参考書：

教科書：原純輔・浅川達人 『社会調査』(改訂版) 放送大学教育振興会、2009.

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料 (Google Classroom で配付) で予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

- (1) 行動科学概論 (社会調査の実際) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 A に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB42502 科目ナンバリング：LHM-0S0201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査の実際

2. Course Title (授業題目)：Social Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：社会調査を遂行しておく上で理解しておくべき、調査目的に合った調査企画・設計の方法と、データ蒐集やデータ分析の主要な技法について理解する。基本的な考え方と同時に、現実遭遇する具体的な問題にどう実際的に対処していくかについても把握する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an advanced course on social surveys. It helps students understand the practical knowledge that should be useful in planning surveys, interviewing, and analyzing survey data.

5. 学習の到達目標：

社会調査を遂行するために基本的な技法に関する知識を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students acquire practical knowledge of social surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 調査票の設計とワーディング 1 (説明・仮説・作業仮説、様々な調査実施方法)
2. 調査票の設計とワーディング 2 (調査票の構成、ワーディングと回答の歪み)
3. 標本抽出と統計的推測 1 (標本抽出法)
4. 標本抽出と統計的推測 2 (統計的推測)
5. 標本抽出と統計的推測 3 (統計的検定)
6. 因果推論の方法 1 (因果関係と相関関係)
7. 因果推論の方法 2 (因果的規定力の推定)
8. 測定と尺度構成 1 (測定と尺度構成の考え方)
9. 測定と尺度構成 2 (多次元尺度の考え方)
10. 測定と尺度構成 3 (社会的地位の測定法)
11. 多変量解析の基礎 1 (重回帰分析の考え方)
12. 多変量解析の基礎 2 (質的変数と重回帰分析)
13. 多変量解析の基礎 3 (パス解析と因子分析)
14. データの整理と作成 1 (調査票の配布・回収からエディティング、コウディング、データ入力とクリーニングまで)
15. データの整理と作成 2 (非定形データの処理・分析法)

8. 成績評価方法：

レポート (Google Classroom で提出) による。

9. 教科書および参考書：

参考書：原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第 2 版]』 東京大学出版会、2004

10. 授業時間外学習：教科書と補足資料 (Google Classroom で配付) で予習・復習をする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 行動科学概論 (社会調査の基礎) とあわせて受講することが望ましい。
- (2) 社会調査士資格認定標準科目 B に対応。
- (3) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：行動科学概論／ Behavioral Science (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：毛塚 和宏

コード：LB44502 科目ナンバリング：LHM-OS0201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ゲーム理論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Game Theory

3. 授業の目的と概要：ゲーム理論は人の行動や社会現象を理解するために役立つツールである。この講義では、実際の事例と結び付けながら、ゲーム理論を学ぶ。この授業では以下の内容を学ぶ。

- 1) ゲーム理論を用いて社会現象を表現する
- 2) 展開形ゲーム
- 3) 標準形ゲーム
- 4) 無限繰り返しゲーム
- 5) 不完備情報ゲーム
- 6) 進化ゲーム理論

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Game theory is a useful tool to analyze and understand behaviors and social phenomena. In this course, students learn game theory with actual cases.

The following topics will be covered in the course:

- 1) Explanation of social phenomena by game theory
- 2) Games for strategic form
- 3) Games for extensive form
- 4) Repeated games
- 5) Games with incomplete information
- 6) Evolutionary game theory

5. 学習の到達目標：

- 1) ゲーム理論によるモデルのメカニズムを他人に説明できるようになる。
- 2) ゲーム理論によるモデルを簡単な数学を用いて表現できるようになる。
- 3) ゲーム理論を、自分で見つけた社会現象に応用して分析できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By participating in the course, students will be able to:

- 1) explain the models with game theory to others
- 2) express the models with basic mathematics
- 3) analyze the social phenomena, applying the game theory

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン

1. イントロダクション
2. 保険料から人種まで：統計的差別と合理的選択理論の復習
3. Film for Two：標準形ゲーム
4. 見知らぬ他人と協力できるか：囚人のジレンマ
5. 通話料金の価格の決まり方：寡占
6. 結婚相手は家事する人ぞ？：展開形ゲーム
7. 協調する関係が起りやすい環境：繰り返しゲーム
8. リーマンショックの裏で：モラルハザード
9. 家事をする夫と結婚するには：不完備情報ゲーム
10. なぜバイトは暴走する？：エージェンシー問題
11. 中古車市場は存在しない？：逆選択
12. 現代的な「踏み絵」：スクリーニング
13. なぜ学歴によって給料が異なるのか：シグナリングゲーム
14. エスカレーターに生じる規範：進化ゲーム理論
15. 授業のふりかえり

8. 成績評価方法：() 筆記試験 [%]・(○) レポート [70%]・(○) 小課題 [30%]

9. 教科書および参考書： 参考書：佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論—人間と社会の複雑な関係を解く』新曜社、2008 年

10. 授業時間外学習：入念な予習、復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practical business

12. その他：

随時メール(kkezuka@ila.titech.ac.jp)にて連絡すること。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB35403 科目ナンバリング：LHM-OS0202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：行動科学のための数理モデル入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Mathematical Models in Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：行動科学において重要なツールである数理モデルについて初歩から学ぶ。

この授業で主にあつかうトピックは行動経済学，合理的選択理論，数理社会学，確率モデル，推測統計である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to study mathematical models that are important analytical tools in behavioral science.

5. 学習の到達目標：

- (1) 数理モデルとは何かを正しく理解できる。
- (2) 数理モデルの基礎となる数学を正しく理解できる。
- (3) 数理モデルを用いて社会現象や人間行動を分析する力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will clearly understand what mathematical models are.

(2) Students will clearly understand mathematics that is the foundation of mathematical models.

(3) Students will acquire the skill of analyzing social phenomena and human behavior by mathematical models.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は Classroom を使用して課題等を配布します。

浜田 (2018) をテキストとして、様々な数理モデルの手法とその考え方を解説する。単にテキストを講読するだけでなく、数理モデルを用いて参加者が自分で社会現象や人間行動を分析できるようになることを重視する。

1. モデルとは何か (序)
2. 隠された事実を知る方法 (第 1 章)
3. 卒業までに彼氏ができる確率 (第 2 章)
4. 内定をもらう方法 (第 3 章)
5. 先延ばしをしない方法 (第 4 章)
6. 理想の部屋を探す方法 (第 5 章)
7. アルバイトの配属方法 (第 6 章)
8. 売り上げをのばす方法 (第 7 章)
9. その差は偶然でないと言えるのか? (第 8 章)
10. ネットレビューは信頼できるのか? (第 9 章)
11. なぜ 0 円が好きなのか? (第 10 章)
12. 取引相手の真意を知る方法 (第 11 章)
13. お金持ちになる方法 (第 12 章)
14. 数理モデルで社会を分析しよう (1) (担当者・履修者による報告 1)
15. 数理モデルで社会を分析しよう (2) (担当者・履修者による報告 2)

8. 成績評価方法：

毎回の課題 (80%)，授業内での質問やコメント (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏，2018，『その問題、数理モデルが解決します：社会を解き明かす数理モデル入門』ベレ出版。

参考書：矢野健太郎・田代嘉宏，1993，『社会科学のための基礎数学 改訂版』裳華房。

10. 授業時間外学習：演習中の議論に積極的に参加できるようにテキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

命題の証明はかならず自分で計算してフォローすること。内容の理解に必要な数学については矢野・田代 (1993) を参照すること。

科目名：行動科学基礎演習／ Behavioral Science (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB45404 科目ナンバリング：LHM-OS0202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：行動科学のための因果推論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Causal Inference for Behavioral Science

3. 授業の目的と概要：行動科学，経済学，社会学，心理学において非常に重要な課題である因果推論（原因と結果の判断）について、その基本的な考え方と代表的な分析方法を紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explain the fundamental idea and practical method of causal inference

5. 学習の到達目標：

到達目標

- (1) 因果推論とは何かを正しく理解できる。
- (2) 因果推論を行うための統計的方法を理解できる。
- (3) 具体的な社会現象について、自分で因果推論を行う能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) understanding causal inference corectly

- (2) understanding the statistical method for causal inference
- (3) conducting causal inference for certain social phenomena

7. 授業の内容・方法と進度予定：

伊藤 (2017) 安井 (2020) をテキストとして、因果推論の考え方と代表的な方法を解説する。授業は、担当者が 1 章をまとめ、全員で疑問点を確認する。さらに発展のための課題を検討する。授業の実施形態：オンライン

1. イントロダクション：因果推論とは何か
2. 反実仮想とランダム化比較試験
3. 回帰分析
4. 共変量のコントロール
5. 傾向スコアマッチング
6. 傾向スコアと IPW
7. . 差の差分析
8. causal impact
9. 自然実験
10. 回帰不連続デザイン
11. RDD と機械学習
13. R コードによる実装
- 14R コードによる実装 2
15. 自分で RCT をデザインしてみよう

8. 成績評価方法：

毎回の課題 (80%)、授業内での質問・コメント・発言 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：安井 翔太, 2020, 『効果検証入門』技術評論社.

参考書：伊藤公一郎, 2017, 『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』光文社新書

その他の文献は授業時に指示する

1 0. 授業時間外学習：テキストを事前によく読み、疑問点を調べておくこと。課題をきちんと行うこと。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時, 後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB43409 科目ナンバリング：LHM-OS0203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多変量解析

2. Course Title (授業題目)：Quantitative Research Methods

3. 授業の目的と概要：統計ソフトウェア R を用いた演習を通じて、多変量解析の理論およびデータ分析について理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to learn statistical research methods using R.

5. 学習の到達目標：

(1) 記述統計量から多変量解析までの統計分析についての知識を身に付け、適切に使用できるようになる。

(2) 統計ソフトウェア R を用いて、多変量解析を行うことができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand and apply a variety of statistical research methods.

(2) To learn how to use R for statistical analysis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. R の基礎
3. 変数のタイプと基本統計量
4. グラフの基本
5. クロス集計表
6. 単回帰分析
7. 重回帰分析
8. ダミー変数、交互作用項
9. 回帰分析におけるモデルの診断
10. 多変量解析と因果関係
11. 二項ロジスティック回帰分析
12. 順序ロジスティック回帰分析、多項ロジスティック回帰分析
13. 多変量解析の結果の報告
14. 総合演習 (1)
15. 総合演習 (2)

8. 成績評価方法：

毎週の授業前後の課題 (60%)、期末レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

永吉希久子, 2016, 『行動科学の統計学』共立出版.

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回課題が出るので、計画的に取り組むことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：行動科学基礎実習／ Behavioral Science (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時. 前期 水曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB33409 科目ナンバリング：LHM-OS0203J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査演習

2. Course Title (授業題目) : Social Survey Methods

3. 授業の目的と概要： 社会調査を行う上で必要となるさまざまな技法を習得することを目的とし、授業を通して社会調査の企画から実査、分析、報告書の作成までの一連の過程を経験する。この授業では特に量的調査を中心に扱う。

具体的には、東北大学学生を対象にした質問紙調査を行う。調査のテーマ設定、調査票の作成や調査の実施、データの入力、分析、報告を行う。「東北大学生の生活と意識」を共通のテーマとして設けたうえで、受講生の関心に応じてグループに分け、質問項目を考えてもらう予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course gives students experiences needed to conduct a social survey. It covers a quantitative social survey. Students are asked to plan and conduct an actual social survey, to analyze the data, and to write a report about the results. Respondents of the survey will be students of Tohoku University. The main theme of the survey will be "Life of students of Tohoku University and their attitudes."

5. 学習の到達目標：

- (1) 社会調査を行うための技法を身につけ、実際の調査を適切な方法で実施できるようになる。
- (2) 仮説の設定およびその検証方法を理解し、分析結果を仮説と関連させながら適切に表現できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. To acquire skills for conducting social surveys.

2. To understand how to build and examine hypotheses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 社会調査とは・社会調査の進め方
2. 社会調査のデザイン・調査テーマの設定
3. 先行研究、既存調査の整理
4. 仮説の設定、実査方法・調査対象者の検討
5. 質問項目の検討
6. 調査票の作成
7. 実査
8. エディティング・コーディング
9. 調査結果の入力
10. データのクリーニング
11. データ分析による仮説の検証 (1)
12. データ分析による仮説の検証 (2)
13. 結果の報告・報告書原稿の執筆
14. 報告書原稿の輪読・修正
15. 報告書の作成

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (40%)、最終報告書 (60%)

9. 教科書および参考書：

轟亮・杉野勇, 2017, 『入門・社会調査法 第3版』法律文化社.

10. 授業時間外学習：(1) 調査票作成段階：関連する先行研究を読み、仮説を検討する

(2) 実査段階：調査項目の検討、実査への参加

(3) 分析段階：報告書原稿の作成

授業時間外においてもグループによる作業が必要になることがあるので、留意すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：濱田 国佑

コード：LB98828 科目ナンバリング：LHM-OS0301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：政治心理学

2. Course Title (授業題目) : Political Psychology

3. 授業の目的と概要：本講義では、政治行動論や社会心理学との比較の中での政治心理学の特徴を説明した上で、その古典的研究における知見から最新の研究動向まで説明していく。具体的には、政党帰属意識、政治的洗練性（政治知識・政治関心）、メディア効果論（新聞・テレビ・SNS）、政治文化（政治的社会化・脱物質主義・ソーシャルキャピタル）、有権者の自律性（合理的選択論・ポピュリズム）といったテーマをとりあげ、そこでのメカニズムを説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides the basic theories of political psychology, comparing with political behavior and social psychology. We focus on party identification, political sophistication (e.g. political knowledge, political interest), media politics (e.g. TV-news, Internet), political culture (e.g. political socialization, post-materialism, social capital), voter rationality (rational choice and populism).

5. 学習の到達目標：

本講義の目的は、政治心理学の理論や、知見、研究例についてなじみ理解を深めることにある。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students better understand political psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 政治心理学の特徴：合理的選択論との比較の中で
2. 政治心理学の方法論：因果推論とサーベイ実験
3. 政治文化 (1)：民主制と政治的社会化
4. 政治文化 (2)：価値観変動とソーシャル・キャピタル
5. 投票行動 (1)：ダウンズモデルと政党システム
6. 投票行動 (2)：コロンビアモデル～ミシガンモデルまで
7. 投票行動 (3)：業績評価投票～ニューロ・ポリティクスまで
8. 政治的洗練性 (1)：ヒューリスティックとしてのイデオロギー
9. 政治的洗練性 (2)：政治的知識・関心・有効性間感覚に関する議論
10. 政治的洗練性 (3)：「新しい X」(ミリュー・強化学習・記憶) の発見
11. 政治とメディア (1)：限定効果論～新しい強力効果論まで
12. 政治とメディア (2)：WEB(SNS) の効果に関する研究動向
13. 有権者の自律性 (1)：維新の会は「ポピュリスト政党」なのか？
14. 有権者の自律性 (2)：外交・安保 (ハードイシュー) と「ネット右翼 (ネトウヨ)」
15. まとめ：政治心理学は何を明らかにしていないのか？

8. 成績評価方法：

期末レポートのみで評価します。課題は、授業で紹介した理論を用いて、実際にあった政治現象を理論的・実証的に分析することを求めます。詳細は授業中にお知らせします

9. 教科書および参考書：

授業ごとにレジュメを配布します。各自の関心に応じて、下記の参考書を紹介します。

1. ドナルド・R・キンダー (加藤秀治郎・加藤祐子訳). 2004. 『世論の社会心理学：政治領域における意見と行動』世界思想社.
2. 山田真裕・飯田健. 2009. 『投票行動研究のフロンティア』おうふう.
3. 善教将大. 2018. 『維新支持の分析：ポピュリズムか、有権者の合理性か』有斐閣.
4. 今井耕介 (粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳). 2018. 『社会科学のためのデータ分析入門』岩波書店.

10. 授業時間外学習：上記の本や授業中に紹介する論文を各自で読んで、政治心理学のメカニズム理解の深化に努めてください。また、twitter など、SNS で政治問題が実際にどのようにフレーミングされているかについても関心を持っておきましょう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

質問などの連絡先：hamada@komazawa-u.ac.jp

科目名：行動科学各論／ Behavioral Science (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 単位数：2

担当教員：永吉 希久子

コード：LB98829 科目ナンバリング：LHM-OS0301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多文化共生論

2. Course Title (授業題目)：Multicultural Society and Its Problems

3. 授業の目的と概要：目的：日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。
概要：日本における外国人住民の生活状況について、様々な社会制度との関わりを検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand current conditions of 'multicultural coexistence' in Japan and impacts of institutions on the conditions.

5. 学習の到達目標：

日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students explain how institutions affect current conditions of 'multicultural coexistence' in Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況（仕事や学校、地域生活、家庭生活など）と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。

授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：移民の統合モデル

第3回：日本における移民受け入れの歴史

第4回：低技能労働者としての移民

第5回：高技能労働者としての移民

第6回：ケアワーカーとしての移民

第7回：国際結婚

第8回：移民の子どもの教育①

第9回：移民の子どもの教育②

第10回：移民と社会保障

第11回：難民

第12回：非正規移民

第13回：反移民意識の広がり

第14回：移民の地域での統合

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加（40%）、最終レポート（60%）

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：外国人の受け入れや在日外国人の生活状況に関連するニュースに関心を持ち、情報を集めておくことが期待される。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：計算人文社会学各論／ Computational Humanities and Social Sciences(Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：瀧川裕貴

コード：LB55306 科目ナンバリング：LHM-OS0304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文学・社会科学の計算的アプローチ入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Computational Humanities and Social Sciences
3. 授業の目的と概要：近年、人文学や社会科学において、ビッグデータや計算的手法を用いた研究が発展してきている。この授業では、人文学や社会科学のトピックに計算的アプローチを応用する計算人文社会学に関して、方法論の基本、背景となる理論、実際の研究例を紹介することで、計算人文社会学という新しい学問について理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the basics and theories of computational humanities and social sciences based on actual cases of studies in this field.
5. 学習の到達目標：
 - 1) 計算人文社会学で用いられる方法論や理論の基本的内容や特徴を理解できるようになる。
 - 2) 計算人文社会学や計算的手法の用いられた人文・社会科学の論文を読解し正しく理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to understand the methods and theories of computational social sciences.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、M.サルガニックの『ビットバイビット』(瀧川裕貴ほか訳、有斐閣、2019)を教科書として用いて、ビッグデータ分析、サーベイ調査、デジタル実験の3つの方法を中心に、計算人文社会学の理論と方法について講義形式で進めていく。スケジュールは、以下の予定である(ただし授業の進度や受講生の関心に応じて適宜変更する可能性がある)。

 1. イントロダクション
 2. 計算人文社会学とはなにか
 3. ビッグデータの特徴、その長所と短所
 4. ビッグデータを用いた研究事例 1
 5. ビッグデータを用いた研究事例 2
 6. ビッグデータ分析についてのまとめ
 7. サーベイ調査の歴史と新展開
 8. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 1
 9. デジタル時代の新しいサーベイ調査法事例 2
 10. デジタルサーベイ調査法についてのまとめ
 11. 実験研究の基本的論理とデジタル時代における発展
 12. デジタル実験の研究事例 1
 13. デジタル実験の研究事例 2
 14. デジタル時代の実験法についてのまとめ
 15. 全体のまとめ
8. 成績評価方法：

出席・授業での発言など(50%)、期末レポート(50%)
9. 教科書および参考書：

M.サルガニック, 2019 『ビット・バイ・ビット：デジタル社会調査入門』有斐閣
10. 授業時間外学習：事前に教科書の該当箇所を読み、授業での質問や発言に備える。また、授業後は理解を深めるために教科書の復習をすることが望ましい。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 1 2. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB55210 **科目ナンバリング：**LHM-OS0302J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：偏見の社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of Prejudice

3. 授業の目的と概要：目的：偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

概要：偏見の形成と維持のメカニズムのついての最新の知見を、文献講読を通じて学ぶとともに、今後の研究可能性について議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to learn basic theories on prejudice and new findings in recent studies. It aims to help students explore in what mechanism prejudice has been formed and maintained.

5. 学習の到達目標：

個々の理論の関連を理解し、偏見に関する一連の研究を体系的に説明できるようになる。

偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to become able to explain mechanisms through which prejudice is formed and maintained based on theories.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、必要に応じて解説を行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 偏見とは何か
3. 権威主義的パーソナリティ
4. 社会的カテゴリー化
5. ステレオタイプ化
6. ステレオタイプ脅威とアイデンティティ
7. スティグマ
8. アファーマティブ・アクション
9. メディアにおける偏見
10. 人種・民族に対する変換
11. 病気・障害に対する偏見
12. 生活習慣に対する偏見
13. 偏見の変遷
14. 総括討論 (1)
15. 総括討論 (2)

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、偏見によって生じる諸問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LB65207 科目ナンバリング：LHM-OS0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：移動と階層

2. Course Title (授業題目)：International Mobility and Social Stratification

3. 授業の目的と概要：出入国管理法の改正に向けた動きが活発化し、さらなる外国人労働者の受け入れが行われつつある。しかし、外国人労働者の受け入れに関しては、制度整備が十分に行われていないことが指摘されている。この授業では移民・外国人労働者の社会的地位やライフチャンスの不平等に関して、社会階層研究の視点から理解できるようになることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to understand current employment conditions of international migrants and their difficulties.

5. 学習の到達目標：

移民・外国人労働者の社会的地位やライフチャンスの不平等に関して、社会階層研究の視点から理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to become able to understand inequalities of social status and life chances regarding immigrants and foreign workers from the perspectives of social stratification.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、必要に応じて解説を行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 社会学における社会移動・地位達成 (1)
3. 社会学における社会移動・地位達成 (2)
4. 日本社会における移民の現状 (1)
5. 日本社会における移民の現状 (2)
6. 移民研究の歴史的展開 (1)
7. 移民研究の歴史的展開 (2)
8. 移民の世代間移動
9. 労働市場の流動化と移民
10. ジェンダーと移民
11. 教育を通じた移住過程
12. 高技能移民労働者をめぐる制度
13. 移民に対する排外意識
14. 総括討論 (1)
15. 総括討論 (2)

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内の議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、最終レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、外国人労働に関する問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB51404 科目ナンバリング：LHM-OS0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質問の科学

2. Course Title (授業題目)：Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：行動科学的研究においては調査や実験が行われることが多く、そこでは質問紙（調査票）が用いられることも多い。質問紙（調査票）の作成は長い間「アート」に属するものと見なされて来たけれども、近年になって「質問の科学」と呼ばれる、認知科学的視点にもとづく研究も盛んになってきた。この演習では、「質問の科学」の研究成果を報告した日本語論文を読むことで、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を理解する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」などの関連分野の動向にも目配り

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Although questionnaire design in survey and experimental studies has been regarded as an "art," recent studies from the perspective of cognitive science provide foundations of "the science of asking questions" (as well as those of "total survey error approach," "unobtrusive methods," and some other related research projects). In this seminar, students will learn the fruit of these studies through reading papers (in Japanese) on survey response processes.

5. 学習の到達目標：

認知科学的な見方を身につけることで、データ収集・測定の諸問題について理解を深めるとともに、それらの問題に対処するためにはどのようにしたらよいかを考えることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this seminar is to help students to understand problems in measurement (or data collection) and to establish their ideas on the ways to cope with the problems.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 授業計画の説明、担当の決定、質問の科学の概観
2. 回答選択肢のレイアウト
3. 項目の方向性とグループ化
4. 中間選択肢の影響：検出の方法
5. 中間選択と質問内容、回答者属性
6. 中間選択と質問項目数
7. 中間選択とニューメラシー
8. 回答中断行動
9. 複数回答形式と個別強制選択形式
10. 最小限化（満足化）(1)：分析結果への影響
11. 最小限化（満足化）(2)：そのメカニズムと House Effect
12. 回答指示の非遵守と反応バイアス
13. レスポンス・スタイルの測定モデル
14. センシティブなトピックと使い捨て項目
15. センシティブなトピックとランダムイズド・レスポンス法

8. 成績評価方法：

期末レポート (Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]

9. 教科書および参考書：

演習の場で検討する文献は、参加者各自が「電子ジャーナル」（附属図書館、CiNii, J-STAGE 等を経由）や「機関レポジトリ」などからダウンロードする。

参考文献：グローヴズ他（大隅昇監訳）『調査法ハンドブック』朝倉書店

10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。

(2) 担当の文献に関する報告の準備をする。

(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LB61407 科目ナンバリング：LHM-OS0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「質問の科学」実験実習

2. Course Title (授業題目)：Exercises in the Science of Asking Questions

3. 授業の目的と概要：認知科学的視点に基づいた「質問の科学」に関する理解を、実験実習を通して深める。その理解にもとづいて、行動科学的研究におけるデータ収集法・測定法の諸問題とそれへの対処方法を習得する。その際、「総調査誤差アプローチ」や「センシティブなトピック」、「テキストマイニング」などの関連分野の動向にも目配りをする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, students will further their understandings of the "science of asking questions" by engaging in experimental surveys so that they can cope with problems in data collection in behavioral science. Exercises in text mining and randomized response technique are also provided.

5. 学習の到達目標：

- (1) 測定と尺度構成の基本的な考え方を、実習を通して理解する。
- (2) 人々が質問紙に回答する際の認知的メカニズムに関する理解を深める。
- (3) 準実験的フィールド調査と実験室実験を通して、質問紙の設計と調査実施の技法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the concept and methods of measurement and scaling.
(2) To understand cognitive mechanisms in survey response processes.
(3) To learn the techniques of questionnaire design through planning and conducting experimental surveys.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 授業計画の説明、グループ編成
2. 分類とコーディング
3. 尺度構成法
4. 評定法・序列法・一対比較法
5. 準実験的調査の企画と実施(1)：調査テーマと調査対象の検討
6. 準実験的調査の企画と実施(2)：質問項目と質問文の検討
7. 準実験的調査の企画と実施(3)：実査の準備と実施
8. 準実験的調査の企画と実施(4)：データの整理と分析
9. 自由記述データのテキストマイニング(1)：2次分析の企画
10. 自由記述データのテキストマイニング(2)：基礎集計
11. 自由記述データのテキストマイニング(3)：多変量解析
12. アイテムカウント法(1)：実験の企画、実験の準備
13. アイテムカウント法(2)：協力者募集と実験実施
14. アイテムカウント法(3)：実験実施とデータの整理
15. アイテムカウント法(4)：データの分析

8. 成績評価方法：

レポート (6回、Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (課題への取り組み) [50%]

9. 教科書および参考書：

原 純輔・海野道郎 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会、2004.

そのほかの文献については、授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1) 教科書・補足資料 (Google Classroom で配付) や参考文献を事前に読み、予習をしておく。

(2) 教科書等で指定された作業 (調査・実験・データ分析等を含む、共同作業の場合もある) を行い、その結果をレポートにまとめる。

(3) 教科書等にある「問題」について考え、その結果をレポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認すること。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴

コード：LB51501 科目ナンバリング：LHM-OS0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会秩序形成とエージェント・ベースト・モデル
2. Course Title (授業題目)：Formation of social order and agent-based models
3. 授業の目的と概要：人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read some papers on self-organization of social order to understand how to study such phenomena.
5. 学習の到達目標：
進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand how evolutionary game theory and agent-based models contribute to sociology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション (1)
 2. イントロダクション (2)
 3. 社会秩序概念の検討 (1)
 4. 社会秩序概念の検討 (2)
 5. 自己組織性の理論的検討 (1)
 6. 自己組織性の理論的検討 (2)
 7. 自己組織性の経験的分析 (1)
 8. 自己組織性の経験的分析 (2)
 9. 進化ゲーム理論 (1)
 10. 進化ゲーム理論 (2)
 11. 計算社会学入門 (1)
 12. 計算社会学入門 (2)
 13. エージェント・ベースト・モデル (1)
 14. エージェント・ベースト・モデル (2)
 15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [50%]
9. 教科書および参考書：
開講時に指示する。
10. 授業時間外学習：演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：
オフィスアワー：月曜日午後 12 時～午後 1 時（事前に予約すること）
第 6 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴

コード：LB61501 科目ナンバリング：LHM-OS0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エージェント・ベースト・モデルによる社会現象の分析

2. Course Title (授業題目)：Analysis of social phenomena by agent-based models

3. 授業の目的と概要：エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で社会現象を解明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students are expected to master methods of agent-based modeling and study social phenomena by themselves.

5. 学習の到達目標：

前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会現象を自分で解明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to build agent-based models and study social phenomena by themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. プログラミング入門 (1)
3. プログラミング入門 (2)
4. プログラミング入門 (3)
5. 研究テーマの決定とグループ分け
6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)
7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)
8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)
9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)
10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)
11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)
12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)
13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)
14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)
15. 各グループによる最終的な研究報告

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

10. 授業時間外学習：グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー：月曜日午後 12 時～午後 1 時 (事前に予約すること)

第 5 セメスターの行動科学演習と併せて参加すること

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB53214 科目ナンバリング：LHM-OS0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目)：Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。

2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis

2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from good samples.

5. 学習の到達目標：

Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.

2.To learn mathematical formalization and modeling

3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は Classroom を使用します。

1. イントロダクション モデルとはなにか

2. 真の分布，確率モデル，データ

3. 最尤推定

4. ベイズ推定

5. MCMC

6. 確率分布

7. 汎化誤差，AIC，WAIC，予測分布

8. Stan による分析：回帰

9. Stan による分析：モデル式の書き方

10. Stan による分析：階層モデル

11. Stan による分析：所得分布分布生成モデル

12. Stan による分析：観測モデルとの接合

13. Stan による分析：時間割引モデル

14. Stan による分析：教育達成の階層間格差

15. まとめと総括

8. 成績評価方法：

毎回の課題 [80%]，授業内での質問・コメント・発言 [20%]

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏・石田淳・清水裕士，2019『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店。

参考書：久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。

松浦健太郎，2016，『Stan と R で統計モデリング』共立出版

その他の参考書は適宜指示する

10. 授業時間外学習：予習に指定した範囲を事前に読んでくること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicates the practical business

12. その他：

本演習では R と Stan による実装例を紹介するので，実行環境を整えた PC を準備することが望ましい。

高校・大学初年度レベルの微積分を復習しておくことが望ましい。

科目名：行動科学演習／ Behavioral Science (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LB63212 科目ナンバリング：LHM-0S0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学のためのエコノメトリクス

2. Course Title (授業題目)：Econometrics for Social Science

3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を統計モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。

2) 現実の社会現象をどうやって統計モデルとして定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Course objectives is to understand basics of statistical model

5. 学習の到達目標：

データの分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Learnig goal is to understand the method to formalize a statistical model.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする。計算が必須なので必ず予習すること。

授業の実施形態：オンライン

1. イントロダクション

2. 確率変数と分布

3. 統計的推測

4. OLS 回帰

5. OLS 推定量の分布

6. 重回帰分析，欠落変数バイアス

7. 対数線形モデル，線形射影

8. 線形制約 操作変数法

9. 線形制約と回帰係数の均一性

10. 条件付き期待値回帰

11. モーメント法

12. ロバスト標準誤差

13. 内生性，操作変数法，TSLs 推定量

14. 最尤法，漸近理論

15. 離散選択モデル

8. 成績評価方法：

毎回の課題 [80%]，授業内での質問・コメント・発言 [20%]

9. 教科書および参考書：

教科書：鹿野繁樹，2015，『新しい計量経済学』日本評論社

参考書：末石直也，2015，『計量経済学』日本評論社

久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。

10. 授業時間外学習：毎週，指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する

指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

確率論，微分積分，線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。事前に履修していない場合は授業を通して学習することが必要である。